Maetel Story 10

from GALAXY EXPRESS 999 with Love

ん…
んん…

どうしたの
鉄郎…!?

気持ちよく
ないの…!?

そんなこと
はないよ…

メーテルの
口はとっても
気持ちいいよ…

ん

そんなじゃなくて
退屈で死にそう
なんだ…

ずっと同じ
星の眺めが
続くし…

ん……

当分停まる
駅もないわ…

んん…

ギュ

次の停車駅までは時間はあるわ…

それまで…たっぷり楽しみましょう…

メーテル…

ピチャ

ペチャ

チュプッ

チュルッ

ウフフ…

すっかり…固くなってるわよ…

ん…んん…おいし…

ンッ
んむッ…
んふむッ…

ん…んふッ…
んんむ…ん…

チュルッ

チュプッ

んふッ

ウフフ…
もう先走り汁が
溢れ出してる

チュルッ

一滴残らず
飲んであげる…

ん…んん…
とっても
おいしいわ…

ペロッ

ピチャッ

チュッ

ステキよ…
鉄郎…

うッ…

ウフ…

私の口で感じてくれてるの!?

うれしいわ

じゃ…もっと強く吸って…しゃぶってあげる

もっともっと気持ちよくしてあげるわね

ヒクッヒクッ

ウフフ…気持ちいいのかしら…

鉄郎…

メーテル…

ヂュプッ

ヂュルッ

ヂュッ

ビクビクしてるわよ…

ウフフ…

もう…
精液の臭いが
してるわよ…

でも…
まだ出しちゃ
だめよ…
我慢
しなさい…

うう…

ウフフ…
さっきより
固くなってる
わ…

んん…ん…
ん…んふ…

ンッ

ピチャッ

ピチャッ

チュプッ

チュプッ

ハァ
ピチャ
ん…んん…
固くて…
太くて…
んん…
たくましいわ…
ハァ
シフッ
ハァ
チュ
んんん…
ハァ
とってもおいしいわぁ…
鉄郎の○ンポ…
ハァ
ゴックッ
ゴックッ
チュルッ
ンッ
うむふん…
んんふむぅ…
ハァ
大好きよ…

うう…
メーテル…
も…もう…

ハア

ブルブル!!!

ハア

う…

ううう…
メーテル…

ハア

ウフ…

もう我慢
出来ないの!?

全部飲んで
あげるわ…

いいわ…
私の口の中に
出しなさい…

んん…

ドピュドピュドピュ

ンッ!!

ゴクッゴクッゴクッ

んふぅ…

ハア

んん…濃いわ…ねっとりとしてのどに絡みついてくる…

ドロッ

ハア

ああ…鉄郎の…精液…

ハア

ああ…とってもおいしいわ…

ドピュッ

ハア

出したのにまだこんなに…

ウフ…

一滴残らず絞り出してあげる…

ウグッ!!

!

ひどいわ
鉄郎…

いきなり
のどの奥まで
入れるなんて…

おえ…

ケホッ

入れるなら
入れると…

ひとこと
いって…
ちょうだい

ケホッ

ケホッ

ごめんよ
メーテル…

でも…
スリーナインが
突然ゆれたんだ

えっ!?

へんね…
この列車は
めったに
ゆれることは
ないのに…

ガバッ

ん…

もう…誰!?
さっきから
邪魔するのは…

うううう…

!

ドサッ

た…たすけて
くれ…

一等車の…
グリーン車の
お客さんだわ…

動くな!!

動くと
そいつみたいに
なるぜ…

お楽しみのところ
邪魔するぜ!!
お二人さん…

列車強盗!?

そういう
わけさ…

!

空間軌道は
超エネルギー
バリヤーで
囲まれているから

外部からの
侵入はできない
はずなのに…

レールと
いえども人間の
つくったものだ

人間のつくった
ものなら人間に
破れないわけ
はない…

油断は禁物だよ
お娘さん…

あり金と
貴重品を出して
もらいてぇ

ガッ

ほう…
こいつは
中々の上玉
じゃねぇか…

ほっとく手は
ねぇな…

アジトへ
連れていって
楽しませて
もらうか…

何しやがる…
はなせッ

はなせって
んだよ!!
このやろうッ

わ〜〜〜

用が済むまで
おとなしく
してな!!

〜そッ

出せッ!!…
ここから
出しやがれッ

ガンッ
ガンッ
ガンッ

メーテルを
どうする
つもりだッ!!

いやッ!!

ヒィッ!!

アアッ!!

ハア

ハア

やめてぇッ!!

ハア

な…何をするんです!?

ハア

ああ…

ハア

まったく…何ていやらしい身体をしてやがるんだ…

ハア

鉄郎を…返してちょうだいッ

フフフ…

あんな小僧に独り占めさせておくにはもったいねぇぜ

ハア

……

ハア

ハア

さぁて
お嬢さん…

こう見えても
俺はものわかりが
いいほうだが…

小僧の命が
惜しけりゃ
俺たちの
相手をして
もらおうか

満足させることが
できれば…
二人とも
解放してやろう
じゃないか

まずは…
こいつを舐めて
しゃぶって
もらおうか

ドン!!

な…なんて
大きさなの!!

鉄郎よりも…
大きいわ…

鉄郎…

わかりました…

ハア

ああ…

ハア

ドクッ

ハア

ドクッ

ハア

す…すごい…
こんなの…
はじめて…

太くて…
固くて…
信じられない

ハア

ゴクリ

ハア

鉄郎…
ごめんなさい…
こうするしか…

あ…ああ…

ハア

ペチャ

ん…んん…
んふぅ…

ハァ

ハァ

ハァ

ククク…
なかなか上手い
じゃないか

小僧のとくらべて
どっちが旨いかな…
ん…!?

さぁ…くわえて
しゃぶってくれよ

ハァ

んん…そ…
そんなこと…

ハァ

ハァ

ハァ

く…くるしいッ
お…大きすぎるッ

ハァ

うくッ!!

ンッ!!

キュッキュッ

コリッコリッ

ハァ
んぐぐ…だめ…
とても奥まで…
くわえられない…
ヂュプッ
むぐぉ
ハァ
ングッ
ヂュルッ
ハァ
ククク…
すっかり固く
なってやがる
チュッ
ヂュルッ
ンッ
グリッ
グリッ
ハァ
ん…んん…
うふぅん…
ハァ
ハァ
グッ
もごご…

さぁて…
お次は俺の上に
またがりな…
やり方ぐらい
分かってるだろ!?
ハァ
ハァ
ああ…
ハァ
気持ちよく
させてくれよ…
ハァ
ハァ
ハァ

ああ…こんなの…
入れられたら…
私…いったい…
どうなっちゃうの!?

鉄郎…
怖いわ…
助けて…

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ

ハア
ズリッ
ハア
ハア
ミチミチ
ハア
こんなの…お腹が裂けちゃうわッ!!
ハア
ハア
だ…だめッ!! 無理…無理よッ 入らないわッ!!
ハア
いやッ…
ヒィッ!!
ズブーッ
あ!!

いやぁッ!!
裂けるぅッ!!

あああああああッ!!

ズブブブ

ズズズ

ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
だめッ…
抜いてぇッ!!
裂けるぅッ
許してぇッ!!
あうッ!!
ぐぅッ…
あぐぅぅッ!!
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ヒイイッ!!
あんッ!!

く…苦しいッ!!
動かさないでッ!!

くッ…はぁッ
あぐッ…うぐッ

ダ…
ダメッ

アアッ

アアンッ
グッ

やめてッ

ハア
あ…ああん…
あハアン…
アッ
だ…
だめ…
ガクガク
ハア
あうう…
うぐぐう…
ひぐう…
お…おォ…
ハア
ハア
それじゃ…
こっちの穴も
ふさいでやるぜ
ハア
ハア
ハア
ズオオオ
ハア
ビィィ
グフッ

あ…ああん…
す…すごいッ!!

内蔵が…
押しつぶされ
ちゃうッ!!

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

うぐぅッ

あぁんッ

ヒッ!!

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

ああ…

あはぁ…
んん…

ハア

ハア

あ…

ハア

よし…
もう1本
くわえるんだ

い…いやッ
ンングッ!!

ンンッ

ハア

んぐ!!

んんッ…
んふぅ…

ンッ

ハァ

ハァ

どうだい…
穴を三つとも
同時にふさがれた
気分は…!?

ハァ

ククク…
極楽だろう!?

ハァ

ンクッ

ハァ

ハァ

ハア
ん…うふん…
うむふんッ…
ハア
ンッ
ングッ
ハア
ハア
ハア
アンッ
ハア
ヒッ
ハア
うう…
たまらん…
締めつけだぜ
何て…
吸いつきと
絡み具合だ
これほどの
名器は…
久しぶりだぜ…
この女…
なんて…
舌使いだ…

ハァ
ンッ…んむッ
んふむッ…!!
ンッ
んんむッ…
んんふむッ…!!
ンッグッ

うう…
ハァ
ンッ
ヂュプッ
ハァ
んん…
んぐぐ…
ハァ
チュッ
ヂュルッ
ハァ
ングッ
おお…
グヂュッ
グヂュッ

う…もう…
たまらん
出すぞ…

ハア

あ…

ズルッ

ハア

ハア

ハア

アアッ!!
ひゃぶッ

ハア

ハア

たっぷりと
顔にかけて
やるぞ…

ビュルッ
ビュルッ

あ…
熱い…

ハア

はぁぁ…
ああ…

ハア

あふッ

ハア

ハア

ハア

ズルッ
ズルッ

ビュルッ

ハア

アッ

うう…
こっちも…
出すぞ…

ハア

あ…ああ…

ハア

ハア

ヒッ!!

ビュルル

ハア

ハア

あああ…

ドルル

ハア

よし…膣内に
たっぷりと
出させて
もらうぜ…

うう…
さすがに
たまらん…

ドピュッ

いやぁあ
あああッ!!

ヒィッ!!

子宮の中にッ
やめてぇ…!!

アアン

ドクドクドク…

も…もう…
許して…

ハア

ハア

ハア

も…もう…
十分でしょう…
私たちを…
解放して…
ちょうだい…

ハア

ハア

お願い…
鉄郎を…
返して…

ハア

まだまだ
お楽しみは
これだよ…

たっぷりと
セックス漬けに
してやるよ
お嬢さん…

ハア

ああ…
そ…そんな…

ハア

んぐッ
ハア
ハア
ハア
ヒッ
ハア
ハア
むぐッ
んん…
ハア
あぐウッ
ンッ
ハア
も…もう…
やめて…
このままじゃ…
私…どうにか
なってしまう…
ハア
ハア
ああ…
鉄郎…
ハア

く…く…
んん…
んむふぅ…
も…もう…
だめ…
逆らえない…
ンッ
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
むぐッ
すっかり
おとなしく
なりやがった
身体が…
気持ちよく
なりたがってる…

ハア
ンッ
ハア
ハア
ハア
ンッ
ンングッ
んんむッ…
んんふむッ…
ハア
ムチュ
んムン…
むフゥン…
ハア
グフッ
ああ…
気持ち…
いいッ!!…

ハァ
ハァ
んん…
んぐぐ…
ンッ
ハァ
イイッ
ハァ
ああふンッ…
もっと…
もっとして…
ハァ
うむふんッ…
アンッ
ハァ
もっと…
精液注いでッ…
もっと頂戴!!
ハァ
んッ…んむッ…
んふむッ…
ハァ

ハァ
ズズッ ズプッッ
オッ
ズッ! ズヴェッ!
ハァ
ハァ
ンッ
イッ… クゥ…ッ
ハァ
ハァ
んッ…オッ… ンおおォ…ッ!!
アンッ
ハァ
ヴェッ ヴェッ!
ハァ

……

ハッ

気がついた!?
鉄郎…

メーテル!?

こ…ここは!?
あれ…
どうして…
列車強盗は!?
キョロッ
メーテル…
無事だった
のかい!?
何か
されたんじゃ…
キョロッ
どうしたの!?
鉄郎…
ここは
スリーナイン
の中よ…
列車強盗って?
何の事…!?
いやねぇ…
寝ぼけてるの!?
ウフ…
それにしても
鉄郎ったら
ひどいわ…
あなた途中で
寝ちゃうん
ですもの…
え…ええ!?
それじゃあ…
さっきのは…
まさか…夢…
それとも幻覚…
だったのかな!?
ウフ…
そんなに
気持ち
よかったの!?
でも…
宇宙では
何が起きるか
分からないわ…
油断は禁物よ
鉄郎…

鉄郎…
そんなことより
ねぇ…
ウフフ…
さっきの続きを
しましょう…
私は…
まだだったのよ…
イカせて
ちょうだい…
メーテル…
い…いや…
その…
ん
う…
つべこべ
いわないの…
ほら…
じっとして

ハア
そんなこと
いってる
わりには…
おいし…
ハア
んん…
ハア
ウフフ…
もう…
こんなに
なってるわよ
ハア
途中だったから
もう我慢できないの
ねぇ…早く
入れてちょうだい
ハア
きて…
鉄郎…
今度は…私を
気持ちよくさせて
ちょうだい…
あなたが
欲しいの…

あ

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

この感じ…
とっても
いいわ…

ステキよ
鉄郎…

あ…ああッ…
いいわぁ～～ッ

ズリュ

ズリュ

ズリュ

ズリュ

あああああ
あああああッ

きてッ
鉄郎ッ!!

ハア

よし…
今夜は寝かせ
ないぞ!!

ハア

メーテル!!

ハア

うれしいッ

ハア

ス…ス
やっぱり…

ハア

あなたが
最高ッ!!

イイッ

もっと…
もっと突いてッ

ハア

愛してる…
鉄郎ッ!!

ハア

アッ

ああ…
あなたが一番よ
鉄郎…

男は…
大きさじゃ
ないわ…

END

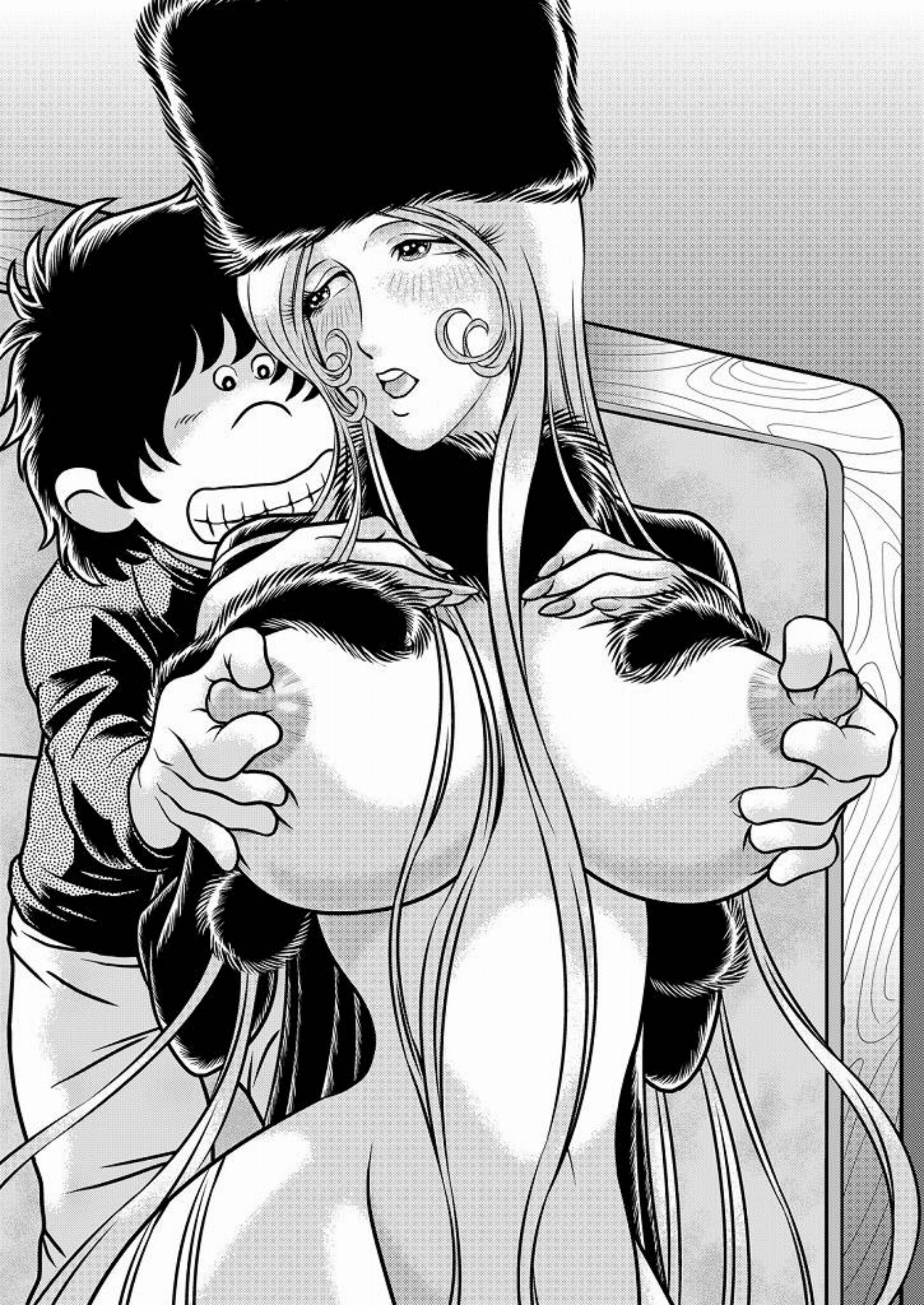
あとがき・・・

このたびはMaetelStory10を
お買い上げいただき、
ありがとうございます。
このナンバリングシリーズも
今回で10作目となりました。
まさかここまで続くとは思っても
みませんでした。
次回作を期待するコメント等を
いただき、頑張ってきました。

次回作はまだ白紙状態ですが、
少しでも楽しんでいただけるよう
頑張って描いてみたいと思います。

今回、おまけ絵の中に要望の
ありましたスレンダーなメーテルを
実験的に描いてみました。
まだまだボインボインな感じが
していますが、どうでしょうか・・・
次回は、こんな感じのメーテルで
描いてみるかもしれません。

感想などをお聞かせいただけると、
次回作への励みとなります。
ありがとうございました。
でわ。



あ

Kaguyahime